

## 4 調査研究業務の概要

### 平成 23 年度実施課題一覧

#### ①保健関係

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
感染症の発生及び食品の安全性確保に関する研究	福岡県におけるカンピロバクター食中毒を防止するための研究	市販鶏肉を検査対象として、増菌培養法とその培養時間がイムノクロマト及び菌分離において検出に及ぼす影響について検討した。	23-25年度	P16
	サルモネラ等の薬剤耐性の拡大を予防するための基礎的研究	サルモネラのセファロスポリン・セファマイシン系薬剤耐性獲得は、他の細菌からの伝達性耐性因子により拡大している。耐性獲得サルモネラがどの程度県内の食品（鶏肉等）を汚染しているか、またヒトに感染しているか実態を調査する。	22-24年度	P16
	福岡県における感染性胃腸炎原因ウイルスの実態解明に関する研究	感染性胃腸炎原因ウイルスのうち、A群ロタウイルスとヒトパレコウイルスについて遺伝子型別を行い、福岡県内における流行実態の把握を行った。	22-23年度	P18
	新型インフルエンザ症例発生時の検査体制の確立	県内の呼吸器系ウイルスの実態解明、平成21年度に発生したインフルエンザウイルスAH1pdm09の解析、鳥インフルエンザの検査、監視体制を確立させる。	21-23年度	P18
ダイオキシン類、有害化学物質による健康被害の防止とその対策に関する研究	油症診断基準の一つであるポリ塩化クアテルフェニル（PCQ）の新測定法の開発	油症の診断基準の一つである血液中のポリ塩化クアテルフェニル（PCQ）濃度の測定方法として、全塩素化（現行法）の代わりに脱塩素化を行い、GC/ECDの代わりに高分解能GC/MS（HRGC/HRMS）を用いた新PCQ測定法を開発する。	21-23年度	P14
	食品中PCB代謝物の分析法開発に関する研究	食品中のポリ塩化ビフェニル（PCB）代謝物の化学分析法を確立するとともに、食品汚染実態調査を行い、食の安全性確保に資する。	22-24年度	P20
	有害化学物質による食品汚染実態の把握に関する研究	食品の安全性を把握するため、残留性有機化合物である臭素系難燃剤や農薬等について、新規化合物の分析法検討、食品汚染実態調査及び摂取量調査等を行う。	23-25年度	P20
	油症等のダイオキシン類による人体および次世代影響の解明に関する研究	福岡県を中心に発生した油症をはじめとするダイオキシン類のヒトへの健康被害及び次世代への影響を解明し、行政対応のための科学的データ蓄積に資する。	22-24年度	P20

②環境関係

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
ダイオキシン類、有害化学物質による環境汚染の防止とその対策に関する研究	保健環境研究所データベースを利用した異分野連携システムに関する研究	保健及び環境関連の各部署のデータ（調査データ、測定データ、シミュレーションシステム等）及び地理情報システムとの連携をはかり、県内各地域における保健と環境をあわせた総合的な状況把握が可能なシステムを構築する。	21-23年度	P12
	水環境中における化学物質のリスク評価に関する研究－N,N-ジメチルドデシルアミン, N,N-ジメチルオクタデシルアミン等－	N,N-ジメチルドデシルアミン（DMDA）、N,N-ジメチルオクタデシルアミン（DMOA）は人の健康及び生態系への影響が懸念されている物質であるが、いまだ分析法が開発されておらず、暴露情報が不足している。そこで、これら2物質同時分析法を開発し、環境調査およびリスク評価を行うことを目的とする。	23-24年度	P14
	化学物質の分析法開発並びにそのデータベース化に関する研究	化学物質に関しては国や地方自治体が連携して分析法の開発や実態調査に取り組んでいる状況を踏まえ、新たな化学物質を含めた分析方法の開発を行い、更に多成分の一斉分析を可能にするデータベースを構築する。	22-24年度	P14
大気環境の保全に関する研究	微小粒子（金属類及び有機化合物等）による越境大気汚染の影響評価	微小粒子中に含まれる金属は越境大気汚染の指標となり得る。有機化合物には健康影響を示す物質もある。そこで、本研究では北部九州で微小粒子中の金属類及び有機化合物の実態を把握し、越境大気汚染の影響評価を行う	22-24年度	P22
	高活性炭素繊維を用いた大気浄化技術の実用化、応用研究	道路沿道その他、室内、自動車内、地下駐車場のよう、殆ど風のない場所で、空気の自然対流やガス拡散によりNOx、VOCをACFに捕捉、浄化できる空気浄化システムの設計、実用化を目指す。	23-25年度	P22
水環境の保全に関する研究	藍藻類が生産するミクロシスチンのモニタリング手法とその評価に関する研究	富栄養化した湖沼にみられる藍藻類が生産するミクロシスチン（MC）と言われる毒性のあるペプチドのモニタリング手法を確立し、県内のMC汚染の現状把握及び有毒藍藻類の発生状況を明らかにし、水資源の有効利用促進や湖沼の適正で効率的な水質管理に資する。	21-23年度	P24
	溶存態ケイ素を考慮した沿岸生態系管理に関する基礎的研究	有明海のノリの不作・赤潮の発生等の問題解決を目指して、従来の窒素・リンに加え溶存態ケイ素（DSi）を加えた沿岸生態系予測モデルを完成させることを念頭に、溶存態ケイ素の流出負荷量モデルを作成する。これを窒素・リンの流出負荷量と比較検討し、その沿岸生態系への影響について調査する。	22-24年度	P24
廃棄物の適正処理と有効利用に関する研究	最終処分場からの有機汚濁質による硫化水素生成と適正処理に関する研究	最終処分場における高汚濁負荷を有する浸出水等を対象として、有機物の硫化水素生成能、分解特性及び水処理特性を明らかにし、硫化水素生成予測や有機汚濁質の処理などの対策や最終処分場の適正管理に資する。	22-24年度	P26

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
自然環境と生物多様性の保全に関する研究	オゾンによる植物被害とその分子的メカニズムに関する研究	オゾンストレスに対し、応答的に発現が増加する遺伝子をスクリーニングし、気象条件等も考慮した被害評価法を確立する。	21-23年度	P28
	特定外来生物ブラジルチドメグサ及びミズヒマワリの防除に関する研究	筑後地域の一部に限定して大繁茂しているブラジルチドメグサ及びミズヒマワリ(特定外来種)の2種は、現状で有効的駆除方法があれば排除可能と考えられる。そこで、両種を対象に、効果的かつ効率的な防除方法について検討する。	21-23年度	P28
	湿地の生物多様性評価に関する研究 - 福岡県内湿地の特性把握と重要湿地の抽出 -	福岡県内の湿地を対象として、生物種の分布実態を詳細に調査し、県内湿地の生物多様性の現状を把握するとともに、得られた調査データ及び既存情報等を統合して、重要地域及び生物多様性ホットスポット等を抽出する。	23-25年度	P28
	希少水生生物の生息地再生に関する研究	近年、積極的な保全対策として、自然再生・生息地再生が試みはじめられているが、その手法や効果については検討すべき課題が多い。そこで、希少水生生物の効果的な生息地再生手法を確立する。	23-25年度	P28
計	20 課題			